



# Release

フランクフルト・アム・マイン

2021年10月27日

## ドイツ銀行、2021年第3四半期に5億5,400万ユーロの税引前利益を計上

### 改革費用<sup>1</sup>の大幅増にもかかわらず、2021年第3四半期の税引前利益は前年同四半期の15%増

- 調整済税引前利益<sup>1</sup>は、前年同四半期から39%増加し、12億ユーロ
- 改革費用<sup>1</sup>は前年同四半期の1億400万ユーロから増加して5億8,300万ユーロ
- コア・バンクの税引前利益は、前年同四半期とほぼ同水準の8億9,800万ユーロ
- キャピタル・リリース・ユニットの業績は改善：2021年第3四半期の税引前損失は、前年同四半期から19%減少し、3億4,400万ユーロ
- 当行グループの純利益は、6%増加して、3億2,900万ユーロ

### 2021年第3四半期の純収益は、市場の正常化の影響を事業成長によって相殺したことにより、2%増加して60億ユーロ

- 2021年第3四半期の貸出金の増加は、110億ユーロ
- プライベート・バンク：2021年第3四半期の90億ユーロの事業成長により、年初から第3四半期までの事業成長を380億ユーロに引き上げた
- アセット・マネジメント：120億ユーロの純資金流入により、運用資産が過去最高の8,800億ユーロとなる

### 2021年第3四半期において調整済コストは減少したが、改革費用が利息以外の費用に影響

- 利息以外の費用は、前年同四半期から4%増加し、54億ユーロ
- 改革費用を除いた調整済コスト<sup>1</sup>は、前年同四半期から3%減少し、47億ユーロ
- 改革に関連する影響の合計額<sup>1</sup>のうち、90%が計上済み

### 資本、リスクおよびバランスシートの厳格な管理を継続

- 普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率は、指針に沿って13.0%
- 信用損失引当金は、前年同四半期から57%減少し、1億1,700万ユーロ
- キャピタル・リリース・ユニットのRWAは、2022年末までの目標を上回るペースでさらに削減され300億ユーロ

### 第3四半期経過時点で2021年通年のサステナビリティ目標を上回る進展

- 2021年第3四半期の環境・社会・ガバナンス (ESG) 関連ファイナンスおよび投資の取引高は、270億ユーロ
- 2020年年初からの上記の累積取引高は1,250億ユーロとなり、2021年末までに1,000億ユーロとする目標を上回る

### 2021年年初からの9カ月間：前年同期から大幅な増益

- 純利益は、前年同期の5倍強増加し、22億ユーロ
- 当行グループの税引前利益は、以下を反映して、前年同期の4倍近くとなる33億ユーロの増加
  - 純収益は5%増し、195億ユーロ
  - 改革費用を除く調整済コスト<sup>1</sup>は4%減少し、146億ユーロ

<sup>1</sup> 本項目およびその他のGAAP以外の財務的測定尺度の詳細については、2021年第3四半期補足財務データ（英文）の17頁から25頁の「GAAP以外の財務的測定尺度の使用について」をご参照ください。

- 信用損失引当金繰入額は83%減少し、2億6,100万ユーロ
- コア・バンクの税引前利益は、2020年年初からの9カ月間から64%増加し、43億ユーロ
  - 税引後RoTE<sup>1</sup>は、前年同期の4.3%から増加して7.5%、費用収益比率は76%

CEOのクリスティアン・ゼーヴィングは、次のように述べています。「2021年第3四半期において、当行は改めて、事業の良好な業績を実証しました。当行の収益基盤は底堅さを示し、改革費用に追加が発生したにもかかわらず税引前利益を増加させ、2021年通年のサステナビリティ目標は既にこれを上回っています。当行は、強固な管理体制を維持しながら効率性の向上を進めており、当行の2022年の目標達成が可能であると確信しています。」

**ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBKGn. DB/NYSE:DB）**は、本日、2021年第3四半期において、改革費用としてさらに5億8,300万ユーロを認識した上で、前年同四半期から15%増加となる5億5,400万ユーロの税引前利益を計上したことを発表しました。改革に関連する影響および特別収益項目を除いた**調整後税引前利益<sup>1</sup>**は、前年同四半期から39%増加して12億ユーロとなり、2021年第3四半期の純利益は前年同四半期から6%増加して3億2,900万ユーロとなりました。

2021年第3四半期に認識された改革費用の大半はテクノロジー関連であり、契約の決済およびソフトウェアの減損に関連する約4億5,000万ユーロが含まれ、これらは主に当行システムのクラウドへの移行に伴うものでした。

2022年末までに想定される改革に関連する影響の合計額は、その90%が既に計上済みです。ドイツ銀行は、改革に関連する影響の残りの大部分を、2021年末までに計上する意向を再確認しました。

2021年第3四半期の税引前利益および調整後税引前利益<sup>1</sup>には、当座預金の金利改定について顧客の明示の同意を求めるべきであるとする2021年4月のドイツ連邦裁判所の決定（「BGHの決定」）による、主に逸失収益に関する9,800万ユーロのマイナスの影響が含まれています。この影響は、BGHの決定の影響を受ける口座の約3分の2については既に必要とされる同意を取得していることから、2021年第4四半期以降は大幅に減少することが見込まれます。これらの同意は2021年第4四半期に効力を生じる予定です。

**2021年年初からの9カ月間**において、改革費用の7億9,800万ユーロおよびBGHの決定に関する3億2,400万ユーロの影響があったにもかかわらず、税引前利益は33億ユーロとなりました。このBGHの決定の影響の内訳は、逸失収益に関する1億9,200万ユーロおよび訴訟費用引当金1億3,100万ユーロでした。2020年年初からの9カ月間の税引前利益は、改革費用の2億8,300万ユーロを計上後で8億4,600万ユーロでした。改革に関連する影響および特定収益項目を除き、BGHの決定の影響を含めた調整後税引前利益<sup>1</sup>は、前年同期の15億ユーロから増加して43億ユーロとなりました。

2021年年初からの9カ月間の純利益は、前年同期の4億3,500万ユーロから5倍強増加して、22億ユーロとなりました。平均株主資本利益率（税引後）は前年同期の0.1%から増加して4.3%となり、税引後有形株主資本利益率（RoTE）<sup>1</sup>は前年同期の0.2%から増加して4.8%となりました。税引後RoTE<sup>1</sup>（調整後）は6.6%でした。

2021年年初からの9カ月間の税引後RoTEの増加への4つの中核ビジネスの貢献は以下のとおりです。

- コーポレート・バンク：前年同期の3.2%から増加し、7.0%
- インベストメント・バンク：同じく10.6%から増加し、13.5%
- プライベート・バンク：同じくマイナス1.8%から増加し、2.7%
- アセット・マネジメント：同じく20.3%から増加し、28.3%

当行グループの費用収益比率は、2020年年初からの9カ月間の87%から改善し、82%となりました。

## コア・バンク：2021年年初からの9カ月間において64%増収

キャピタル・リリース・ユニットを含まないコア・バンクの2021年第3四半期の税引前利益は、改革費用が前年同四半期の6,600万ユーロから5億7,000万ユーロに増加したにもかかわらず、前年同四半期の9億900万ユーロとほぼ同水準の8億9,800万ユーロとなりました。調整後税引前利益<sup>1</sup>は、前年同四半期から23%増加し、15億ユーロとなりました。2021年第3四半期の税引後RoTE<sup>1</sup>は3.9%で、調整後の税引後RoTE<sup>1</sup>は7.3%でした。

2021年年初からの9カ月間では、コア・バンクの税引前利益は、前年同期から64%増加して43億ユーロとなり、調整後税引前利益<sup>1</sup>は、こちらも64%増加して52億ユーロとなりました。コア・バンクの2022年の報告ベースの税引後RoTE目標は9%超であるところ、2021年年初からの9カ月間の税引後RoTEは、前年同期の4.3%から増加し、7.5%となりました。調整後の税引後RoTEは9.4%でした。

## キャピタル・リリース・ユニット：継続的な損失の改善およびポートフォリオの削減

キャピタル・リリース・ユニットの2021年第3四半期の税引前損失は、前年同四半期から19%損失を削減し、3億4,400万ユーロとなりました。この改善は主に、利息以外の費用が、前年同四半期から19%減少し、3億1,200万ユーロとなったことによるものです。

キャピタル・リリース・ユニットにおいては、2021年第3四半期中もポートフォリオの削減をさらに進めました。2021年第3四半期のレバレッジ・エクスポージャーは、主にポートフォリオの削減に向けた施策の継続やプライム・ファイナンスの顧客関係の譲渡により、2021年第2四半期の710億ユーロから610億ユーロまで減少しました。当行は、2022年末に向けてレバレッジ・エクスポージャーを510億ユーロとする削減目標に対して、2021年末までにこの目標に到達するかまたはこれを上回る削減を行うことを目指します。RWAは300億ユーロまで削減されており、2022年末のRWAを320億ユーロとする目標を既に上回っています。

2021年年初からの9カ月間では、キャピタル・リリース・ユニットの税引前損失は、前年同期の18億ユーロから43%損失を削減し、10億ユーロとなりました。この改善は主に、利息以外の費用が前年同期から32%減少して11億ユーロとなり、改革費用を除く調整済コストが前年同期の14億ユーロから37%減少して9億100万ユーロとなったことによるものです。

2020年第3四半期以降、キャピタル・リリース・ユニットにおいて、レバレッジ・エクスポージャーは、900億ユーロから32%削減されて610億ユーロとなり、またRWAは、390億ユーロから23%削減されて300億ユーロとなりました。

## 収益：中核ビジネスにおける底堅さ

2021年第3四半期の当行グループの純収益は、継続する市場の正常化、低金利環境およびBGHの決定による9,600万ユーロの逸失収益の影響があったにもかかわらず、前年同四半期から2%増加し、60億ユーロとなりました。2021年第3四半期のコア・バンクの純収益は、前年同四半期から2%増加し、61億ユーロとなりました。

2021年年初からの9カ月間では、当行グループの純収益は、前年同期から5%増加して195億ユーロとなり、コア・バンクの純収益は、前年同期から4%増加し、こちらも195億ユーロとなりました。

当行の中核ビジネスにおける2021年第3四半期の収益の概要は以下のとおりです。

- **コーポレート・バンクの純収益**は、前年同四半期と同水準の13億ユーロとなりました。事業成長や預金の金利改定実施により、低金利環境の逆風や一時的な収益項目（ポートフォリオの見直しに向けた施策やクレジット・プロテクションに関連した信用損失引当金の取戻しその他の一時的な影響からなる）における前年同四半期からの5,900万ユーロの減少による影響が相殺されました。これらの一時的項目を除いたベースでは、2021年第3四半期の純収益は前年同四半期から若干の増加となり、特定項目による収益への影響はありませんでした。2021

年第3四半期末現在、預金の金利改定契約の対象となった口座の預金総額は、2021年第2四半期末現在の880億ユーロから増加して940億ユーロとなり、2021年第3四半期における純収益に9,600万ユーロ貢献しました。貸出金は、2021年第3四半期に30億ユーロ増加しました。**2021年年初からの9カ月間における純収益**は、前年同期から3%減少し、38億ユーロとなりましたが、一時的性質の項目や通貨換算の影響を除いたベースでは、前年同期とほぼ同水準となりました。

- **インベストメント・バンクの純収益**は、前年同四半期から6%減少し、22億ユーロとなりました。債券および為替(FIC)セールス/トレーディングの収益は、前年同四半期から12%減少し、16億ユーロとなりました。ファイナンスにおける大幅な増収は、市場環境の正常化およびボラティリティの低下が堅調な水準の顧客取引を上回ったことに起因する、クレジット、金利および外国為替における減収により相殺されました。エマージング・マーケットの収益は、地域全体の業績向上により増加しました。オリジネーションとアドバイザリーの収益は、前年同四半期から22%増加し、6億4,800万ユーロとなりました。これは、債券オリジネーション、株式オリジネーションおよびアドバイザリーそれぞれが増収となったことを反映したものです。**2021年年初からの9カ月間**の純収益は、前年同期から4%増加し、77億ユーロとなりました。2021年年初からの9カ月間において、当行はドイツにおけるオリジネーションとアドバイザリーで8.7%のシェアを占め、第1位となりました(出所:ディールロジック)。当行は、バンカー誌による2021年インベストメント・バンキング・アワードにおいて、*西欧における最優秀インベストメント・バンク*に選ばれました。
- **プライベート・バンクの純収益**は、前年同四半期から2%減少し、20億ユーロとなりました。特定項目およびBGHの決定により生じた逸失収益に関する9,400万ユーロの影響を除いたベースでは、収益は前年同四半期とほぼ同水準でした。プライベート・バンク(ドイツ)の収益は、前年同四半期から6%減少、BGHの決定による影響を調整したベースでは1%増加しました。インターナショナル・プライベート・バンクの収益は、前年同四半期から6%、特定項目を除くと1%増加しました。新規取引高は90億ユーロで、これには投資商品における純資金流入50億ユーロおよび顧客への純新規貸出金30億ユーロが含まれます。**2021年年初からの9カ月間**の純収益は、BGHの決定による1億8,800万ユーロの影響にもかかわらず、前年同期から1%増加し、62億ユーロとなりました。2021年年初からの9カ月間における新規取引高は、投資商品における純資金流入220億ユーロおよび顧客への純新規貸出金110億ユーロを含む380億ユーロとなり、プライベート・バンクの2021年通年の目標である300億ユーロを上回りました。
- **アセット・マネジメントの純収益**は、前年同四半期から17%増加し、主にマネジメント・フィーが過去6年間における最高水準まで増加したことにより、過去7四半期で最高の6億5,600万ユーロとなりました。このマネジメント・フィーの増加は、6四半期連続の純資金流入や良好な市場環境での市場パフォーマンスを受けたものです。2021年第3四半期における純資金流入は、すべての資産の柱において資金流入が生じたことにより、120億ユーロとなりました。このうち50億ユーロは、環境・社会・ガバナンス(ESG)資産における資金流入であり、これは四半期のESG資産の資金流入としては2021年における最高額となっています。純資金流入や為替動向によるプラスの影響により、2021年第3四半期の運用資産は、2021年第2四半期から210億ユーロ増加して過去最高の8,800億ユーロとなり、2020年第3四半期からは、460億ユーロの純資金流入を含め、1,210億ユーロの増加となりました。**2021年年初からの9カ月間**では、純収益は前年同期から18%増加して19億ユーロとなり、純資金流入は、130億ユーロのESGの純資金流入を含め、330億ユーロとなりました。

## 改革費用の計上完了に向けたさらなる前進

2021年第3四半期の**利息以外の費用**は、5億8,300万ユーロの改革費用を含め、前年同四半期から4%増加し、54億ユーロとなりました。これは、主に当行システムのクラウドへの移行に伴う契約の決済およびソフトウェアの減損によるものでした。これらはいずれも今後の四半期におけるランレートの

よるコストを削減することが予想されます。2021年第3四半期の改革費用を除く調整済コストは、前年同四半期から3%減少し、47億ユーロとなりました。

**ドイツ銀行の従業員**（常勤相当）は、2021年第3四半期末において84,512人となり、2021年第2四半期から715人増加しました。事業成長を支えるための選択的な採用および契約スタッフを内部雇用としたことによる影響は、人員削減施策その他による退職により大部分が相殺されましたが、2021年第3四半期の前四半期からの増加は、主に毎年この時期に行われる新卒者採用を反映したものでした。選択的な採用、内部雇用および新卒者採用を進めているものの、従業員（常勤相当）は前年同四半期末からは2,500人弱減少しています。

**2021年年初からの9カ月間**の利息以外の費用は、前年同期からほぼ3倍の7億9,800万ユーロとなる改革費用の増加があったにもかかわらず、前年同期から2%減少し、159億ユーロとなりました。改革費用を除く調整済コストは、前年同期から4%減少し、146億ユーロとなりました。

### 信用損失引当金は引き続き前年同四半期から大幅に減少

2021年第3四半期の**信用損失引当金**は、良好なクレジット環境、質の高い貸出金および厳格なリスク管理を反映して、前年同四半期から57%減少し、1億1,700万ユーロとなりました。2021年第3四半期の不良債権（ステージ3）に対する引当金は1億9,900万ユーロとなり、前年同四半期から51%減少しました。信用損失引当金は、マクロ経済の見通しがより安定化したことを受け、正常債権（ステージ1および2）に対する8,200万ユーロの引当金の純戻入れが行われたことにより、一部相殺されました。

**2021年年初からの9カ月間**の信用損失引当金は、前年同期から83%減少して、2億6,100万ユーロとなり、貸出平均残高に対する割合（年率）は、前年同期における47ベースポイントから低下して8ベースポイントとなりました。

### 資本およびバランスシートの保守的な管理

2021年第3四半期末の**普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率**は、2021年第2四半期末の13.2%から低下し、従前の指針に沿った13.0%となりました。この低下は主に、想定されていた規制を要因とした手法の変更によるRWAの増加に加え、当行のリスク・プロファイルの改善によるオペレーショナル・リスクRWAの減少により大部分は相殺されたものの、顧客関連取引活動に関するRWAが増加したことを反映したものです。2021年第3四半期末現在のCET1資本は、普通株式配当6億4,100万ユーロの控除を反映したものです。

2021年第3四半期末の**レバレッジ比率**（完全適用ベース）は、キャピタル・リリース・ユニットにおいて継続して行われているレバレッジ・エクスポージャーの削減が、通貨換算の影響により相殺されたことを受け、2021年第2四半期末と同水準の4.8%となりました。段階的導入ベースによるレバレッジ比率は、4.9%でした。

2021年第3四半期末の**流動性準備金**は、2021年第2四半期末の2,540億ユーロに対し、2,490億ユーロとなりました。これには、質の高い流動性資産2,170億ユーロが含まれます。流動性カバレッジ比率は137%となり、当行の目標である130%を上回り、安定調達比率（暫定値）は123%で、当行の目標範囲である115%~120%を上回り、要求水準に対する超過額は1,090億ユーロとなりました。

### サステナブル・ファイナンス：第3四半期の取引高270億ユーロにより2021年通年の目標を上回る

2020年初めからの**環境・社会・ガバナンス (ESG) 関連ファイナンスおよび投資の累積額**（DWSを除く）は1,250億ユーロに達しました。これは、2021年末までに1,000億ユーロ以上とする当行の目標を上回っており、2023年末までに2,000億ユーロ以上とする目標に向けて進んでいます。

2021年第3四半期におけるESG関連ファイナンスおよび投資の取引高（DWSを除く）は、過去最高の水準であった2021年第2四半期と同等の270億ユーロでした。当行の事業部門別の内訳は以下のとおりです。

- **コーポレート・バンク**：サステナブル・ファイナンスに30億ユーロを積み増し、コーポレート・バンクの累積額は180億ユーロに増加
- **インベストメント・バンク**：サステナブルなファイナンス取引高および資本市場における発行高が170億ユーロとなり、インベストメント・バンクの累積総額は730億ユーロ。2021年年初からの9カ月間では、ESG関連債券およびサステナビリティ・リンク・ボンドの発行高（報酬ベース）において、当行は2020年通年の世界第8位から順位を上げ、第5位（出所：ディールロジック）
- **プライベート・バンク**：ESG運用資産における50億ユーロの増加に、顧客への新規貸出しによる10億ユーロが加わり、プライベート・バンクにおける累積総額は340億ユーロに増加

2021年第3四半期の当行事業における主な進展は以下のとおりです。

- 2021年第3四半期におけるESG債券発行案件の上位（額面総額ベース）6件のうち、4件でブックランナーを務めました（出所：ディールロジック）。
- 各国初の**ソブリン・グリーンボンド**案件（とりわけ、英国債務管理庁の100億ポンドの発行、およびスペイン王国初の50億ユーロの発行を含む）3件において主幹事を務めました。
- 当行初の**グリーン・レポ契約**を締結し、2,000万ポンドの調達を行いました。
- 当行初の**グリーン・フォルモサ債**を通じた2億ユーロの調達を行い、これにより再生可能エネルギー・プロジェクトやエネルギー効率向上への資金提供を支援します。
- コーポレート・バンクは、**ドイツ国内の中小企業顧客（Mittelstand）**への融資をさらに拡大し、また部門内の**サステナビリティ・リンク・ローン**構築体制を増強しました。プライベート・バンク（ドイツ）は、海洋リスクを最も受けやすい地域の対応力強化のため、**ブルー・エコノミー・ファンド**を導入しました。

当行は、EcoVadis社の「サステナブルな調達成熟度評価(Sustainable Procurement Maturity Review)」を初めて受け、「プロアクティブ」の評価を受けました。また当行は、エネルギー属性証明書を利用して、2024年までに当行業務における再生可能エネルギーによる電力の使用率を100%にするための道筋を策定しました。

累積ESG取引高には、2021年5月31日開催の当行のサステナビリティ・ディープ・ダイブでの決定にしたがい、コーポレート・バンク、インベストメント・バンクおよびプライベート・バンクにおける、2020年1月1日から2021年9月30日までのサステナブル・ファイナンス（フロー）および投資（ストック）が含まれています。対象となる商品には、資本市場における発行（ブックランナーを務めた分のみ）、サステナブル・ファイナンスおよび2021年9月30日現在の運用資産が含まれます。累積取引高および目標には、DWSにより別個に報告される、DWSのESG運用資産は含まれません。

## グループ業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
内:								
コーポレート・バンク(CB)	1,255	1,255	1	0	3,798	3,920	(122)	(3)
インベストメント・バンク(IB)	2,227	2,364	(137)	(6)	7,718	7,394	324	4
プライベート・バンク(PB)	1,999	2,036	(37)	(2)	6,195	6,162	32	1
アセット・マネジメント(AM)	656	563	93	17	1,919	1,631	288	18
キャピタル・リリース・ユニット(CRU)	(36)	(36)	0	(1)	21	(159)	181	N/M
コーポレートおよびその他(C&O)	(61)	(243)	182	(75)	(140)	(373)	232	(62)
<b>純収益合計</b>	<b>6,040</b>	<b>5,938</b>	<b>102</b>	<b>2</b>	<b>19,510</b>	<b>18,575</b>	<b>935</b>	<b>5</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>117</b>	<b>273</b>	<b>(156)</b>	<b>(57)</b>	<b>261</b>	<b>1,540</b>	<b>(1,279)</b>	<b>(83)</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	2,520	2,663	(142)	(5)	7,703	7,997	(294)	(4)
一般管理費	2,840	2,336	504	22	8,128	7,810	318	4
のれんおよびその他の無形資産の減損	3	0	3	N/M	3	0	3	N/M
再構築費用	5	185	(179)	(97)	107	382	(274)	(72)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>5,369</b>	<b>5,183</b>	<b>186</b>	<b>4</b>	<b>15,941</b>	<b>16,189</b>	<b>(248)</b>	<b>(2)</b>
<b>税引前利益</b>	<b>554</b>	<b>482</b>	<b>72</b>	<b>15</b>	<b>3,308</b>	<b>846</b>	<b>2,462</b>	<b>N/M</b>
法人所得税費用	225	173	52	30	1,114	411	703	171
<b>純利益</b>	<b>329</b>	<b>309</b>	<b>20</b>	<b>6</b>	<b>2,194</b>	<b>435</b>	<b>1,759</b>	<b>N/M</b>
非支配株主に帰属する純利益	23	31	(8)	(26)	92	87	5	6
ドイツ銀行株主およびその他の資本 構成要素に帰属する純利益	306	278	28	10	2,102	348	1,754	N/M
その他の資本構成要素に帰属する 純利益	112	96	16	16	308	286	21	8
ドイツ銀行株主に帰属する純利益 (損失)	194	182	12	7	1,794	62	1,732	N/M
普通株式等 Tier1 資本比率	13.0%	13.3%	(0.3)ppt	N/M	13.0%	13.3%	(0.3)ppt	N/M
レバレッジ比率(完全適用ベース)	4.8%	4.4%	0.3ppt	N/M	4.8%	4.4%	0.3ppt	N/M
資産合計(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	1,326	1,388	(62)	(4)	1,326	1,388	(62)	(4)
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	456	433	24	5	456	433	24	5
預金(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	586	575	11	2	586	575	11	2
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	84,512	86,984	(2,472)	(3)	84,512	86,984	(2,472)	(3)

N/M:意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## コア・バンク業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
コーポレート・バンク(CB)	1,255	1,255	1	0	3,798	3,920	(122)	(3)
インベストメント・バンク(IB)	2,227	2,364	(137)	(6)	7,718	7,394	324	4
プライベート・バンク(PB)	1,999	2,036	(37)	(2)	6,195	6,162	32	1
アセット・マネジメント(AM)	656	563	93	17	1,919	1,631	288	18
コーポレートおよびその他(C&O)	(61)	(243)	182	(75)	(140)	(373)	232	(62)
<b>純収益合計</b>	<b>6,076</b>	<b>5,974</b>	<b>101</b>	<b>2</b>	<b>19,489</b>	<b>18,735</b>	<b>754</b>	<b>4</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>121</b>	<b>266</b>	<b>(145)</b>	<b>(55)</b>	<b>297</b>	<b>1,490</b>	<b>(1,194)</b>	<b>(80)</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	2,498	2,620	(122)	(5)	7,606	7,856	(251)	(3)
一般管理費	2,549	1,997	552	28	7,155	6,379	777	12
のれんおよびその他無形資産の減損	3	0	3	N/M	3	0	3	N/M
再構築費用	8	183	(175)	(96)	109	379	(270)	(71)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>5,057</b>	<b>4,799</b>	<b>258</b>	<b>5</b>	<b>14,873</b>	<b>14,615</b>	<b>259</b>	<b>2</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>N/M</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>(0)</b>	<b>N/M</b>
<b>税引前利益</b>	<b>898</b>	<b>909</b>	<b>(12)</b>	<b>(1)</b>	<b>4,319</b>	<b>2,630</b>	<b>1,690</b>	<b>64</b>
資産合計(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	1,173	1,150	23	2	1,173	1,150	23	2
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	454	429	24	6	454	429	24	6
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	84,123	86,486	(2,363)	(3)	84,123	86,486	(2,363)	(3)

N/M:意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup>四半期末時点

## セグメント別業績

### コーポレート・バンク (CB)

2021年第3四半期の**税引前利益**は、前年同四半期から57%増加して2億9,200万ユーロとなり、これはコーポレート・バンクの四半期の税引前利益としては、2019年に当行の変革プログラムが始動して以来の最高額でした。調整後税引前利益<sup>1</sup>は、前年同四半期から33%増加し、3億1,700万ユーロとなりました。税引後RoTE<sup>1</sup>は、前年同四半期の5.1%から増加し、7.8%となりました。

2021年第3四半期の**純収益**は、13億ユーロで、前年同四半期と同水準でしたが、ポートフォリオの見直しに向けた施策やクレジット・プロテクションに関連した信用損失引当金の取戻しの大幅な減少により前年同四半期から5,900万ユーロの減少となった一時的な性質の項目を除いたベースでは、若干の増加となりました。2021年第3四半期において、特定項目による収益への影響はありませんでした。コーポレート・バンクにおいては、事業の取組みや、預金の金利改定契約がさらに進展し、その対象となった口座の預金総額が2021年第2四半期末現在の880億ユーロから増加し、2021年第3四半期末現在は940億ユーロとなったことによる影響が、低金利環境の逆風を上回りました。2021年第3四半期における純収益のうち9,600万ユーロは、預金の金利改定によるものでした。

**コーポレート・トレジャリー・サービス**からの純収益は、7億5,500万ユーロで、前年同四半期から1%の増加となりました。これは、預金の金利改定契約やその他の事業の取組みによる影響が、低金利環境の逆風、ポートフォリオの見直しに関連する項目における減収およびクレジット・プロテクションに関連した信用損失引当金の取戻しの減少の影響を上回ったことによるものです。

**機関投資家向けサービス**の純収益は、3億2,600万ユーロで、基礎となる事業の業績の影響により、前年同四半期から2%の増加となりました。**ビジネス・バンキング**の純収益は、低金利環境の逆風が事業成長や預金の金利改定契約の進展の影響を上回ったため、前年同四半期から6%減少し、1億7,400万ユーロとなりました。

**利息以外の費用**は、主に再編および退職費用ならびに訴訟費用の減少を受けて、前年同四半期から5%減少し、9億7,300万ユーロとなりました。**改革費用を除く調整済コスト<sup>1</sup>**は、前年同四半期から1%減少し、9億4,700万ユーロとなりました。

**信用損失引当金**は、前年同四半期の4,100万ユーロの繰入れに対し、2021年第3四半期は1,000万ユーロの戻入れとなりました。これは、減損事象が引き続き少なかったことやステージ1およびステージ2に対する引当金の戻入れが発生したことによるものです。

**2021年年初からの9カ月間**では、税引前利益は、前年同期から倍増して7億7,200万ユーロとなりました。調整後税引前利益<sup>1</sup>は、前年同期から76%増加し、8億6,200万ユーロとなりました。この増加は主に、信用リスク引当金繰入額の減少や訴訟費用の減少によるものであり、収益がわずかに減少したことにより一部相殺されました。この減収は、一時的な収益項目（ポートフォリオの見直しに向けた施策やクレジット・プロテクションに関連した信用損失引当金の取戻しその他の一時的な影響を含む）における前年同期からの8,600万ユーロの減少や、通貨換算の影響を受けたことによるものです。2021年年初からの9カ月間において、特定項目による収益への影響はありませんでした。税引後RoTE<sup>1</sup>は、前年同期の3.2%に対し、7.0%に増加しました。

## コーポレート・バンク (CB) 業績概要

特記表示がなされる限り 単位: 百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
コーポレート・トレジャリー・サービス	755	750	5	1	2,301	2,387	(86)	(4)
機関投資家向けサービス	326	320	7	2	952	969	(18)	(2)
ビジネス・バンキング	174	185	(10)	(6)	545	564	(18)	(3)
<b>純収益合計</b>	<b>1,255</b>	<b>1,255</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>3,798</b>	<b>3,920</b>	<b>(122)</b>	<b>(3)</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>(10)</b>	<b>41</b>	<b>(51)</b>	<b>N/M</b>	<b>(50)</b>	<b>291</b>	<b>(341)</b>	<b>N/M</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	352	353	(1)	(0)	1,067	1,055	12	1
一般管理費	614	651	(37)	(6)	1,985	2,158	(173)	(8)
のれんおよびその他無形資産の減損	3	0	3	N/M	3	0	3	N/M
再構築費用	4	25	(20)	(82)	21	30	(9)	(29)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>973</b>	<b>1,028</b>	<b>(55)</b>	<b>(5)</b>	<b>3,076</b>	<b>3,243</b>	<b>(166)</b>	<b>(5)</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>N/M</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>N/M</b>
<b>税引前利益</b>	<b>292</b>	<b>185</b>	<b>106</b>	<b>57</b>	<b>772</b>	<b>387</b>	<b>386</b>	<b>100</b>
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	251	246	5	2	251	246	5	2
貸出金(貸引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	119	115	5	4	119	115	5	4
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	13,577	13,544	33	0	13,577	13,544	33	0

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## インベストメント・バンク (IB)

2021年第3四半期の**税引前利益**は、8億6,100万ユーロ、税引後RoTEは9.7%となり、いずれも前年同四半期から減少しました。これは、極めて高水準であった前年同四半期の収益からの減収が、利息以外の費用および信用損失引当金の前年同四半期からの減少を上回ったことによるものです。

2021年第3四半期の**純収益**は、前年同四半期から6%減少し、22億ユーロとなりました。この減収は、トレーディング・ビジネスの市場環境の正常化が続いたことによるものですが、ファイナンスならびにオリジネーションおよびアドバイザーにおける増収によって一部相殺されました。

**債券および為替 (FIC) セールス/トレーディング**の純収益は、前年同四半期から 12%減少し、16 億ユーロとなりました。顧客取引が堅調であったにもかかわらず、取引市場の正常化が進んだことやボラティリティ水準の低下を受けた金利、外国為替およびクレジット・トレーディングにおける前年同四半期からの減収が、ファイナンスにおける大幅な増収を上回りました。エマージング・マーケットにおける収益は、地域全体の業績が向上したことにより、前年同四半期から増加しました。

**オリジネーションおよびアドバイザー**の純収益は、前年同四半期から 22%増加し、6 億 4,800 万ユーロとなりました。債券オリジネーションの収益は、活発な市場取引によるレバレッジ債券資本市場の収益の大幅な増加が、投資適格債券発行高の正常化を上回ったことにより増加しました。株式オリジネーションの収益は、deSPAC 取引および新規公開 (IPO) におけるシェア拡大により、増加しました。アドバイザーの収益もまた、M&A 取引が引き続き高水準であったことを反映し、大幅に増加しました。

**利息以外の費用**は、前年同四半期から 1%減少して 13 億ユーロとなり、改革費用を除く調整済コスト<sup>1</sup>は、3%減少しました。

**信用損失引当金**は、前年同四半期の 5,300 万ユーロから減少して 3,700 万ユーロとなり、貸出金平均残高に対する割合は年率で 19 ベーシスポイントでした。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関連した減損からの回復の恩恵を受け、引当金は低水準となりました。

**2021 年年初からの 9 カ月間**では、インベストメント・バンクの税引前利益は、前年同期から 32%増加して 34 億ユーロとなり、調整後税引前利益<sup>1</sup>は 35%増加して 35 億ユーロとなりました。この増益は、9 カ月間の純収益が 4%増加して 77 億ユーロとなったこと、および信用損失引当金が 94%減少して 3,900 万ユーロとなったことによるものです。主に銀行税の配分が前年同期から増加したことにより、利息以外の費用が前年同期から 3%増加して 430 億ユーロとなりましたが、前述の増益は、この増加分を上回りました。税引後 RoTE は、前年同期の 10.6%から上昇し 13.5%となりました。

## インベストメント・バンク (IB) 業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2021 年 9 月 30 日に 終了の 3 カ月間	2020 年 9 月 30 日に 終了の 3 カ月間	変動額	増減 (%)	2021 年 9 月 30 日に 終了の 9 カ月間	2020 年 9 月 30 日に 終了の 9 カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
債券および為替(FIC)セールス/ トレーディング	1,585	1,805	(220)	(12)	5,865	5,686	179	3
債券オリジネーション	416	372	44	12	1,200	1,185	14	1
株式オリジネーション	114	95	19	20	427	230	197	86
アドバイザー	118	65	53	82	299	169	130	77
オリジネーションおよびアドバイザー	648	531	117	22	1,926	1,585	342	22
その他	(5)	29	(34)	N/M	(73)	124	(197)	N/M
<b>純収益合計</b>	<b>2,227</b>	<b>2,364</b>	<b>(137)</b>	<b>(6)</b>	<b>7,718</b>	<b>7,394</b>	<b>324</b>	<b>4</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>37</b>	<b>53</b>	<b>(17)</b>	<b>(31)</b>	<b>39</b>	<b>660</b>	<b>(621)</b>	<b>(94)</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	521	562	(41)	(7)	1,587	1,609	(22)	(1)
一般管理費	821	791	30	4	2,697	2,535	163	6
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	(0)	4	(4)	N/M	12	19	(7)	(38)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>1,342</b>	<b>1,357</b>	<b>(15)</b>	<b>(1)</b>	<b>4,296</b>	<b>4,162</b>	<b>134</b>	<b>3</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>(12)</b>	<b>(0)</b>	<b>(12)</b>	<b>N/M</b>	<b>(13)</b>	<b>5</b>	<b>(18)</b>	<b>N/M</b>
<b>税引前利益</b>	<b>861</b>	<b>954</b>	<b>(93)</b>	<b>(10)</b>	<b>3,396</b>	<b>2,567</b>	<b>829</b>	<b>32</b>
資産合計(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	596	592	4	1	596	592	4	1
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	80	73	7	10	80	73	7	10
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	7,359	7,448	(89)	(1)	7,359	7,448	(89)	(1)

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## プライベート・バンク (PB)

2021年第3四半期、**プライベート・バンク**は1億5,800万ユーロの税引前利益を計上し、調整後税引前利益<sup>1</sup>は、1億8,100万ユーロとなりました。

2021年第3四半期の**純収益**は、サル・オープンハイムのワークアウト業務に関する収益が3,400万ユーロ増加したことにより一部相殺されたものの、BGHの決定による逸失収益の影響額9,400万ユーロを反映して、前年同四半期から2%減少し、20億ユーロとなりました。BGHの決定による影響および特定項目を除いた収益は、前年同四半期とほぼ同水準でした。継続的な事業成長は、長引く低金利環境の逆風による影響により相殺され、2021年第3四半期においてプライベート・バンクの純新規取引高は90億ユーロとなり、これには投資商品への純資金流入50億ユーロおよび顧客への純新規貸出金30億ユーロが含まれます。

**プライベート・バンク (ドイツ)**の純収益は、前年同四半期から6%減少、BGHの決定による影響を除いたベースでは1%増加し、12億ユーロとなりました。継続する預金マージン圧縮による逆風の影響は、貸出金からの収益の増加および投資商品からの手数料収入の増加により相殺されました。

**インターナショナル・プライベート・バンク**においては、純収益は、前年同四半期から6%、サル・オープンハイムのワークアウト業務による影響を調整したベースでは1%増加し、8億300万ユーロとなりました。過去における顧客担当者の雇用に支えられた投資商品および貸出金における新事業の持続的成長が、低金利環境による長引く逆風を上回りました。

**運用資産**は、2021年第3四半期において、主に投資商品からの60億ユーロの純資金流入により、60億ユーロ増加し、5,410億ユーロとなりました。

**利息以外の費用**は、前年同四半期から6%減少し、17億ユーロとなりました。これは、改革関連の影響が、前年同四半期における1億9,100万ユーロから減少して6,400万ユーロとなったことを一部反映したものです。**改革費用を除く調整済コスト**<sup>1</sup>は、前年同四半期とほぼ同水準の17億ユーロとなりました。これは、人員削減を含む改革の取組みによる費用節減効果が続いているものの、テクノロジーへの支出の増加、内部サービスコストの配分の増加、および預金保護制度関連費用の増加により相殺されたことによるものでした。

**信用損失引当金**は、支払猶予に関する経営陣による上乘せの取りやめ、厳格なリスク管理および質の高い貸出金の恩恵を受け、前年同四半期から47%減少して9,200万ユーロ、貸出平均残高に対する割合は15ベースポイントとなりました。

**2021年年初からの9カ月間**では、プライベート・バンクは、COVID-19および戦略的目標の実行に関する費用の増加の影響を受けて1億1,400万ユーロの税引前損失を計上した前年同期に対し、4億1,700万ユーロの税引前利益を計上しました。**調整後税引前利益**<sup>1</sup>は、BGHの決定による3億ユーロを超えるマイナスの影響にもかかわらず、前年同期から90%増加し、5億6,100万ユーロとなりました。これは、信用損失引当金の減少およびコスト削減の継続によるものでした。

2021年年初からの9カ月間の**新事業成長**は、300億ユーロを超えることを目指すプライベート・バンクの2021年通年の目標を大きく上回り、380億ユーロとなりました。これには、投資商品における純資金流入220億ユーロおよび顧客への純新規貸出金110億ユーロが含まれます。

## プライベート・バンク (PB) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
プライベート・バンク(ドイツ)	1,196	1,276	(81)	(6)	3,741	3,818	(77)	(2)
インターナショナル・プライベート・バンク(IPB)	803	759	43	6	2,454	2,344	110	5
IPB パーソナル・バンキング <sup>1</sup>	224	228	(5)	(2)	681	650	31	5
IPB プライベート・バンキング・アンド・ ウェルス・マネジメント <sup>2</sup>	579	531	48	9	1,773	1,694	79	5
<b>純収益合計</b>	<b>1,999</b>	<b>2,036</b>	<b>(37)</b>	<b>(2)</b>	<b>6,195</b>	<b>6,162</b>	<b>32</b>	<b>1</b>
内:								
純利息収益	1,149	1,186	(38)	(3)	3,468	3,505	(37)	(1)
手数料およびフィー収益	735	741	(5)	(1)	2,361	2,265	96	4
その他の収益	114	109	6	5	365	392	(26)	(7)
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>92</b>	<b>174</b>	<b>(82)</b>	<b>(47)</b>	<b>307</b>	<b>538</b>	<b>(231)</b>	<b>(43)</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	692	728	(35)	(5)	2,093	2,194	(101)	(5)
一般管理費	1,053	982	72	7	3,303	3,226	76	2
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	3	151	(148)	(98)	74	318	(243)	(77)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>1,749</b>	<b>1,861</b>	<b>(112)</b>	<b>(6)</b>	<b>5,470</b>	<b>5,738</b>	<b>(268)</b>	<b>(5)</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>(0)</b>	<b>(93)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>32</b>
<b>税引前利益(損失)</b>	<b>158</b>	<b>0</b>	<b>157</b>	<b>N/M</b>	<b>417</b>	<b>(114)</b>	<b>531</b>	<b>N/M</b>
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>3</sup>	308	283	25	9	308	283	25	9
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) <sup>3</sup>	250	234	16	7	250	234	16	7
運用資産(単位: 十億ユーロ) <sup>3</sup>	541	477	65	14	541	477	65	14
純資金流入(単位: 十億ユーロ)	6	5	1	28	27	11	15	136
従業員数(常勤相当) <sup>3</sup>	28,927	30,684	(1,757)	(6)	28,927	30,684	(1,757)	(6)

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> イタリア、スペインおよびインドの中小企業が含まれる。

<sup>2</sup> イタリア、スペインおよびインドの中堅企業が含まれる。

<sup>3</sup> 四半期末時点

## アセット・マネジメント (AM)

2021年第3四半期の**税引前利益**は、前年同四半期から18%増加して1億9,300万ユーロとなり、税引後RoTEは、26.6%となりました。調整後税引前利益<sup>1</sup>は、前年同四半期から16%増加し、1億9,800万ユーロとなりました。

2021年第3四半期の**純収益**は、前年同四半期から17%増加し、6億5,600万ユーロとなりました。これは主に、堅調な市場動向によるマネジメント・フィーの増加や6四半期連続の純資金流入を反映したものです。

2021年第3四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から16%増加し、4億1,200万ユーロとなりました。**改革費用を除く調整済コスト**<sup>1</sup>は、前年同四半期から17%増加し、4億600万ユーロとなりました。この増加は主に、変動報酬費用の増加、運用資産の増加に伴う資産運用サービスコストの増加および成長に向けた施策への投資を反映したものです。2021年第3四半期の費用収益比率は、前年同四半期と同水準の63%でした。

2021年第3四半期の**純資金流入**は、すべての地域で、商品の3本柱であるアクティブ、パッシブおよびオルタナティブのすべてにおいて多額の資金流入が発生したことを受けて、120億ユーロとなりました。

運用資産は、堅調な純資金流入や良好な為替レートの変動に加えて、市場の動向により若干のプラスの影響が発生したことを反映して、2021年第3四半期中に210億ユーロ増加し、過去最高の8,800億ユーロとなりました。

2021年年初からの9カ月間では、アセット・マネジメントの税引前利益は、前年同期の3億8,700万ユーロから44%増加し、5億5,600万ユーロとなりました。この増加は主に、好調な市場動向や純資金流入によるマネジメント・フィーからの収益や、保証の公正価値やその他の時価評価が前年同期から有利に変動したこと、中国の資産運用会社であるハーベスト・ファンド・マネジメントに対するDWSの持分からの貢献が増加したことによるその他の収益が、大幅に増加したことによります。2021年年初からの9カ月間において、純資金流入は過去最高水準の330億ユーロに到達し、運用資産は870億ユーロ増加しました。

## アセット・マネジメント (AM) 業績概要

特に表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益:</b>								
マネジメント・フィー	609	524	85	16	1,740	1,585	155	10
運用報酬および取引フィー	27	20	7	37	85	57	28	50
その他	20	18	1	6	93	(12)	104	N/M
<b>純収益合計</b>	<b>656</b>	<b>563</b>	<b>93</b>	<b>17</b>	<b>1,919</b>	<b>1,631</b>	<b>288</b>	<b>18</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>(0)</b>	<b>2</b>	<b>(2)</b>	<b>N/M</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>(1)</b>	<b>(38)</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	193	182	11	6	611	558	53	10
一般管理費	219	173	46	27	599	559	40	7
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	(0)	N/M
再構築費用	(0)	(1)	0	(90)	2	10	(8)	(82)
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>412</b>	<b>354</b>	<b>58</b>	<b>16</b>	<b>1,212</b>	<b>1,127</b>	<b>85</b>	<b>8</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>51</b>	<b>44</b>	<b>7</b>	<b>16</b>	<b>149</b>	<b>114</b>	<b>34</b>	<b>30</b>
<b>税引前利益</b>	<b>193</b>	<b>163</b>	<b>30</b>	<b>18</b>	<b>556</b>	<b>387</b>	<b>169</b>	<b>44</b>
資産合計(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	10	10	0	4	10	10	0	4
運用資産(単位: 十億ユーロ) <sup>1</sup>	880	759	121	16	880	759	121	16
純資金流入(単位: 十億ユーロ)	12	11	1	N/M	33	17	16	N/M
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	4,041	3,882	159	4	4,041	3,882	159	4

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## コーポレートおよびその他 (C&O)

コーポレートおよびその他においては、2020年第3四半期は3億9,300万ユーロの税引前損失であったのに対し、2021年第3四半期は、6億500万ユーロの税引前損失となりました。

2021年第3四半期の**純収益**は、前年同四半期の2億4,300万ユーロのマイナス収益に対し、6,100万ユーロのマイナス収益となりました。これは主に、クロス・カレンシー資金調達ストラクチャーおよび金利ベースの影響に主として起因する評価および期間差異に関連する影響が、前年同四半期では1億7,700万ユーロのマイナスであったのに対し、2021年第3四半期では6,500万ユーロのプラスとなったことによるものです。資金調達および流動性に関連する純収益は、前年同四半期が2,400万ユーロのマイナスであったのに対し、2021年第3四半期は4,700万ユーロのマイナスでした。

2021年第3四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期の1億9,900万ユーロに対し、5億8,100万ユーロとなりました。この増加は主に、コーポレートおよびその他に計上された、主として当行のクラウドへの移行により生じた契約の決済およびソフトウェアの減損に一部関連する改革関連費用4億9,500万ユーロによるものです。OECD移転価格ガイドラインに定義される株主活動に伴う費用で事業部門に割り当てられない金額は9,400万ユーロで、前年同四半期は1億700万ユーロでした。

非支配持分は、各部門の税引前利益から控除された後、コーポレートおよびその他に計上されます。その額は、前年同四半期の4,400万ユーロに対して、2021年第3四半期は3,900万ユーロとなりましたが、これは主にDWSに関連するものでした。

2021年年初からの9カ月間では、コーポレートおよびその他の税引前損失は、前年同期の5億9,700万ユーロに対し、8億2,200万ユーロとなりました。税引前損失の増加は、主に改革関連費用の増加によるものです。評価および期間差異による影響は、2020年年初からの9カ月間ではマイナスであったのに対し、2021年年初からの9カ月間ではプラスでした。

## コーポレートおよびその他 (C&O) 業績概要

特記表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
<b>純収益</b>	<b>(61)</b>	<b>(243)</b>	<b>182</b>	<b>(75)</b>	<b>(140)</b>	<b>(373)</b>	<b>232</b>	<b>(62)</b>
<b>信用損失引当金繰入額</b>	<b>2</b>	<b>(5)</b>	<b>7</b>	<b>N/M</b>	<b>(1)</b>	<b>(1)</b>	<b>(0)</b>	<b>28</b>
<b>利息以外の費用:</b>								
報酬費用	741	795	(54)	(7)	2,248	2,442	(195)	(8)
一般管理費	(160)	(599)	440	(73)	(1,429)	(2,101)	672	(32)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	(0)	3	(3)	N/M	(0)	3	(3)	N/M
<b>利息以外の費用合計</b>	<b>581</b>	<b>199</b>	<b>382</b>	<b>193</b>	<b>818</b>	<b>344</b>	<b>474</b>	<b>138</b>
<b>非支配株主持分</b>	<b>(39)</b>	<b>(44)</b>	<b>5</b>	<b>(12)</b>	<b>(135)</b>	<b>(119)</b>	<b>(16)</b>	<b>14</b>
<b>税引前利益(損失)</b>	<b>(605)</b>	<b>(393)</b>	<b>(212)</b>	<b>54</b>	<b>(822)</b>	<b>(597)</b>	<b>(226)</b>	<b>38</b>
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	30,219	30,928	(709)	(2)	30,219	30,928	(709)	(2)

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## キャピタル・リリース・ユニット (CRU)

2021年第3四半期のキャピタル・リリース・ユニットの**税引前損失**は、前年同四半期の4億2,700万ユーロから大幅に減少し、3億4,400万ユーロとなりました。この改善は主に、利息以外の費用が減少したことによるものです。

**利息以外の費用**は、前年同四半期から19%減少し、3億1,200万ユーロとなりました。この減少には、内部サービスコストの配分や報酬費用および非報酬関連費用が前年同四半期から減少したことによる影響が含まれます。改革費用を除く調整済コストは、前年同四半期から27%減少し、2億4,400万ユーロとなりました。

2021年第3四半期の**純収益**は、プライム・ファイナンスのコスト回収によるプラスの収益により一部相殺されたものの、資金調達、リスク管理およびポートフォリオの削減の影響を受けて、前年同四半期と同水準の3,600万ユーロのマイナスとなりました。

キャピタル・リリース・ユニットにおいて、2021年第3四半期の**レバレッジ・エクスポージャー**は、ポートフォリオの削減のさらなる進展やプライム・ファイナンスのレバレッジの減少により、2021年第2四半期から100億ユーロ減少し、610億ユーロとなりました。

2021年第3四半期末現在の**RWA**は、2022年末のRWAを320億ユーロとするキャピタル・リリース・ユニットの目標に対し、想定を上回るペースで300億ユーロまで削減されました。その内訳は、220億ユーロのオペレーショナル・リスクRWAと80億ユーロの信用リスクおよびマーケット・リスクRWAでした。

2019年第2四半期におけるキャピタル・リリース・ユニットの創設以来、レバレッジ・エクスポージャーは76%、額にして1,880億ユーロ減少し、またRWAは53%、額にして340億ユーロ減少しました。

2021年年初からの9カ月間では、キャピタル・リリース・ユニットの税引前損失は、前年同期における18億ユーロの税引前損失から43%損失を削減し、10億ユーロとなりました。この改善は主に、2021年年初からの9カ月間において、利息以外の費用が前年同期から32%減少して11億ユーロとなり、また改革費用を除く調整済コストが37%減少して9億100万ユーロとなったことによるものです。2021年年初からの9カ月間の純収益は、前年同期から1億8,100万ユーロ改善し、2,100万ユーロとなりました。

## キャピタル・リリース・ユニット (CRU) 業績概要

特記表示がない限り 単位:百万ユーロ	2021年 9月30日に 終了の 3カ月間	2020年 9月30日に 終了の 3カ月間	変動額	増減 (%)	2021年 9月30日に 終了の 9カ月間	2020年 9月30日に 終了の 9カ月間	変動額	増減 (%)
純収益	(36)	(36)	0	(1)	21	(159)	181	N/M
信用損失引当金繰入額	(3)	7	(11)	N/M	(35)	50	(85)	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	23	43	(21)	(48)	97	140	(43)	(31)
一般管理費	292	339	(47)	(14)	972	1,431	(459)	(32)
のれんおよびその他無形資産の減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	(3)	2	(5)	N/M	(2)	3	(4)	N/M
利息以外の費用合計	312	384	(72)	(19)	1,068	1,574	(506)	(32)
非支配株主持分	0	0	0	N/M	0	(0)	0	N/M
引前利益(損失)	(344)	(427)	83	(19)	(1,011)	(1,784)	772	(43)
資産合計(単位:十億ユーロ) <sup>1</sup>	153	238	(85)	(36)	153	238	(85)	(36)
従業員数(常勤相当) <sup>1</sup>	389	498	(109)	(22)	389	498	(109)	(22)

N/M:意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されている。

<sup>1</sup> 四半期末時点

## ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資および資産運用の商品およびサービス、ならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

## 将来の事象に関する記述はリスクを伴います

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが純収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会 (SEC) への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2021年3月12日付年次報告書 (Form 20-F) の「リスク・ファクター」の表題のもとで、およびアニュアル・レポートの「リスク及び機会」の項において詳しく記載されています。これらの文書の写しは、請求により入手可能であり、また [www.db.com/ir](http://www.db.com/ir) からダウンロードすることができます。

## 会計の基準

上記の当行業績は、国際会計基準審議会（IASB）により発行され、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付き固定金利モーゲージの2020年からの適用（以下「EUカーブアウト」）が含まれます。EUカーブアウトに基づく公正価値ヘッジ会計は、各テナーのプールにおける金利のプラス・マイナス両方の動きに対する会計エクスポージャーを最小限に抑えることで、トレジャリーの活動により報告される収益のボラティリティを削減するために用いられます。

2021年9月30日に終了した3か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に4,500万ユーロ、純利益に2,800万ユーロのプラスの影響をもたらしました。2020年9月30日に終了した3か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に1,200万ユーロ、純利益に900万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2021年9月30日に終了した9か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に2億7,600万ユーロ、純利益に1億8,700万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2020年9月30日に終了した9か月について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に6,500万ユーロ、純利益に3,800万ユーロのプラスの影響をもたらしました。

当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EUカーブアウトを伴うIAS第39号を用いて報告しています。2021年9月30日に終了した9か月についてEUカーブアウトの適用は、CET1資本比率に約5ペーシスポイントのマイナスの影響をもたらし、2020年9月30日に終了した9か月については約1ペーシスポイントのプラスの影響をもたらしました。いずれの期においても、EUカーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

## GAAP以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP以外の財務的測定尺度とは、当行の過去または将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、当行の財務諸表においてIFRSに従って計算および表示された最も直接に比較可能な尺度から、場合により、これに含められている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行のGAAP以外の財務的測定尺度、およびこれと最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

### GAAP以外の財務的測定尺度

### 最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度

調整後税引前利益（損失）、ドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）、AT1クーポン後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）

税引前利益（損失）

特定項目を除く収益、通貨換算の影響を調整したベースでの収益、BGHの決定による逸失収益について調整したベースでの収益

純収益

調整済コスト、改革費用を除く調整済コスト、改革費用およびプライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用を除く調整済コスト

利息以外の費用

純資産（調整後）

資産合計

有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額

株主持分合計（帳簿価額）

平均株主資本利益率（税引後）（AT1クーポン後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、調整後資本利益率（税引後）の測定尺度

平均株主持分合計利益率（税引後）

平均有形株主資本利益率（税引後）

平均株主持分合計利益率（税引後）

基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産

基本的流通株式1株当たり資産

**調整後税引前利益（損失）**は、IFRS に基づく税引前利益（損失）を、特定収益項目、改革費用、のれんその他の無形資産の減損ならびに再編および退職費用で調整して算出されます。

**特定収益項目**は、一般的に事業の通常の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲させてしまう可能性のある項目を指します。

**通貨換算の影響を調整したベースでの収益**は、ユーロ以外の通貨建てで発生した過去の会計期間の収益を、当該会計期間における外国為替レートによりユーロに換算することで計算します。これらの調整後の数値およびそれに基づく過去の会計期間との比較によるパーセンテージの変化は、基礎となる取引高の状況についての情報を提供することを意図しています。

**調整済コスト**は、IFRS に基づく利息以外の費用から、(i) のれんその他の無形資産の減損、(ii) 正味の訴訟費用、(iii) 再編および退職費用を控除して計算されます。

**改革費用**は、調整済コストに含まれる費用で、2019年7月7日に発表された新戦略による当行改革に直接関連する費用およびCOVID-19の影響により当行の業績変動が想定されることを受けた追加的または早期の決定に関する一定の費用です。この費用には、改革に関連するソフトウェアおよび不動産の減損、ソフトウェアの加速償却額、ならびに義務負担付契約の引当金や戦略の実施に関する弁護士費用およびコンサルタント費用といったその他の改革費用が含まれます。

**改革に関連する影響**は、2019年7月7日に発表された戦略による財務上の影響です。これらの影響には、改革費用、2019年第2四半期におけるのれんの減損、ならびに2019年第3四半期以降の再編および退職費用が含まれます。上記の税引前の項目に加え、税引後ベースの改革に関連する影響には、上記の項目に関する税効果（資産ベース）および当行グループの改革に関連する繰延税金資産の評価調整額が含まれます。

#### **プライム・ファイナンスに関して返還される可能性のある費用**

ドイツ銀行とBNPパリバは、当行のプライム・ファイナンスおよび株式電子トレーディングのサービスを継続して顧客に提供するための基本取引合意に署名しました。この合意に基づき、当行は顧客がBNPパリバに移行することができるまで、プラットフォームの運営を継続することになり、移行した業務の費用はBNPパリバから返還される可能性があります。

GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細およびそれらを算出するための最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度に対する調整については、当行のウェブサイト [www.db.com/quarterly-results](http://www.db.com/quarterly-results) で公表されている補足財務データ（英文）の17頁から25頁の記載をご参照ください。